

特別支援学校ICT活用充実事業

現状・課題

【現状】

- ・特別支援学校教員実践事例数(R2) 300事例
- ・高等部生徒自己端末保有率(R2) 31.2%
- ・訪問教育用セルラー16台
- ・家庭でのインターネット環境がない児童生徒数(R3) 180人
- ・教員の授業活用率(R2) 94.5%
- ・タブレット型端末の配備(R3) 588台
- ・Wi-Fiルーター 18台配備
- ・幼児児童生徒授業活用率(R3.5) 99.0%

【課題】

- ①コロナ禍による、オンライン授業、動画配信、HP上での教材提供等、ICTの活用が必要
- ②教員の報告事例数は増えているが、教員の力量に差があり、教員の活用技術のベースアップが必要
- ③新設校のさくらの杜高等支援学校の生徒の個人端末をインターネット接続するための環境がない。また、各特別支援学校では、特別教室や体育館など、校内でWi-fiが活用できない箇所が多く、校外学習や遠隔授業等のための校外で使えるインターネット環境もない。児童生徒がICT機器を使う機会を増やすための環境整備が必要
- ④学校で授業を受けることができない児童生徒への学習保障が必要

【目的・活用イメージ】



日常的なICTの活用



使う児童生徒、教師が限られている

多くの幼児児童生徒、教師が活用

授業でICTを活用するための取組

- ・年間指導計画へのICT活用題材の体系作り
- ・児童生徒による「タブレット型端末活用コンテスト」の開催
- ・活用事例及びアプリ情報のデータベース化
- ・(新)外部講師によるICT活用推進のための各校研修会

・指導力向上事業でのICTを活用した授業への取組

・ICT活用支援員等研修や研究協議を年2回実施

幼児児童生徒、教員が活用するための環境整備

- ・モバイルWi-Fiルーター57台の配備
- ・音声を認識し、即座にテキストを変換するシステムの利用

入院や不登校の児童生徒、訪問教育における遠隔授業の実施

- ・タブレット型端末セルラーモデル18台を活用し、遠隔授業を実施



教員全体の活用技術が向上・幼児児童生徒の生活場面でのICT活用が促進

臨時休校でも家庭で学習できる・障がいによる困りも軽減・将来の生活への自立につながる

取り組み